

学びの多様化への対応

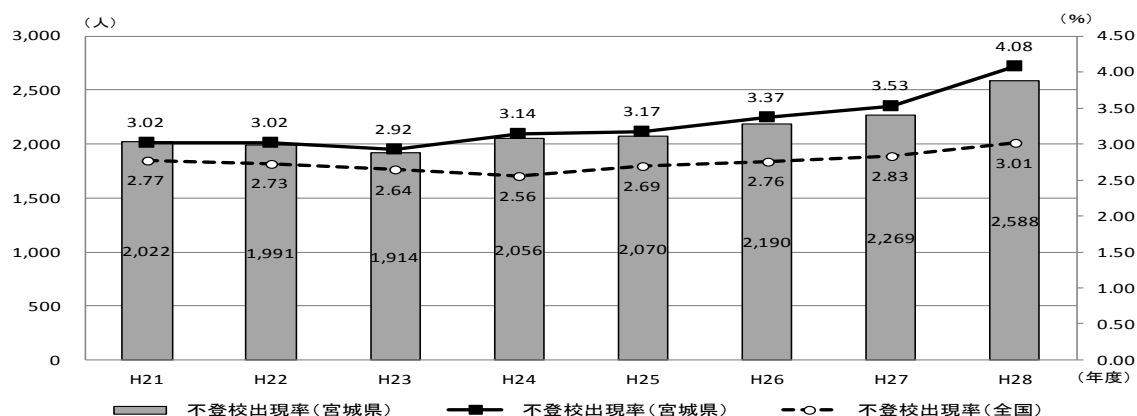
(2) 支援を必要とする生徒への対応

支援を必要とする生徒への対応

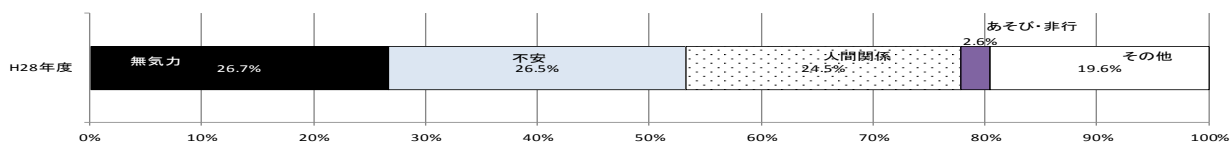
- ・不登校経験者や全日制課程からの転入者、中途退学者など多様な生徒が学ぶ場として、定時制課程や通信制課程が重要な役割を担っている。
- ・特別支援学校への入学を希望する児童生徒数が増加しているほか、発達障害など、普通学校に在籍する特別な支援が必要な子どもたちに対する教育的ニーズが高まっている。

1 不登校生徒の状況

① 不登校生徒数の推移（中学生）

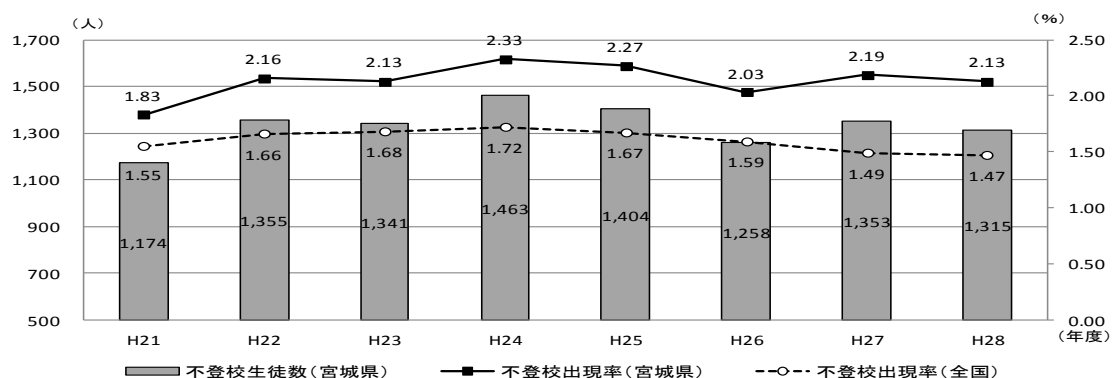


② 不登校の要因（県内中学生）

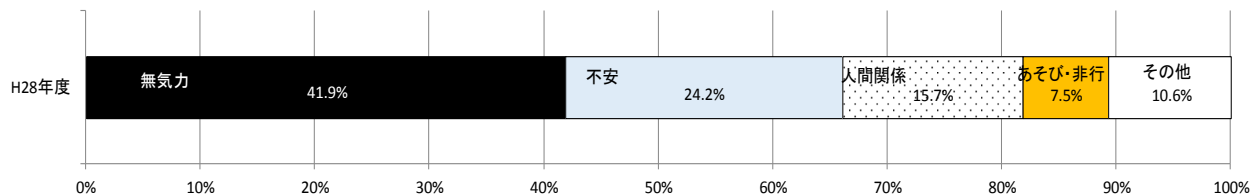


- ・平成 28 年度の県内中学校の不登校生徒数は 2,588 人で、不登校出現率は 4.08%（全国 3.01%）となった。不登校出現率は高い水準で推移している。
- ・県内中学生の不登校の要因を本人に係る要因で見ると、「『無気力』の傾向がある」、「『不安』の傾向がある」がともに多く、次いで「『学校における人間関係』に課題を抱えている」となっている。

③ 不登校生徒数の推移（高校生）



④ 不登校の要因（県内高校生）

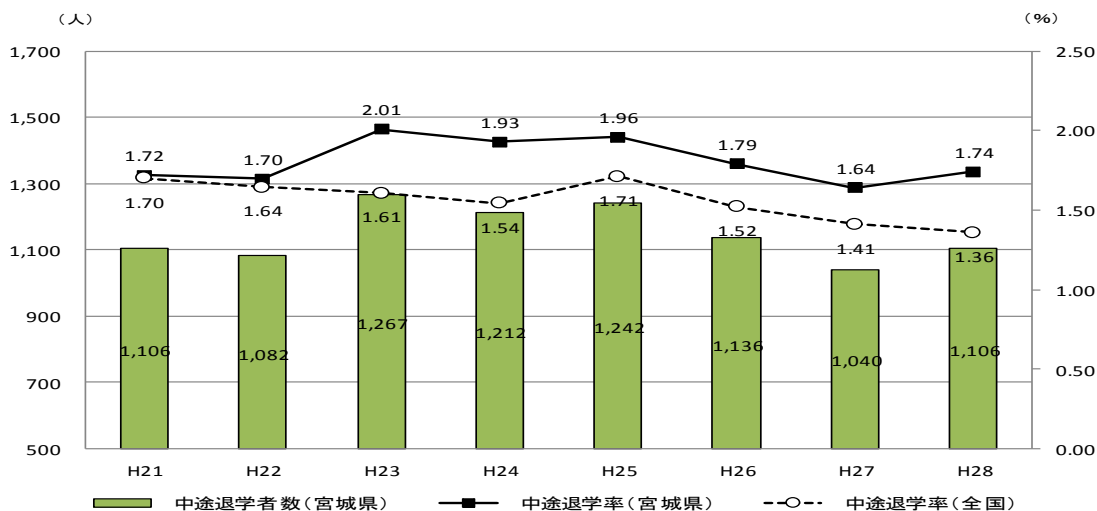


- 平成 28 年度の県内高校生の不登校生徒数は 1,315 人で、不登校出現率は 2.13%（全国 1.47%）となった。全国平均を上回る数値で推移している。
- 不登校の要因を本人に係る要因で見ると、『無気力』の傾向がある」が最も多く、次いで『不安』の傾向がある」となっているが、中学生に比べて『無気力』の割合が多くなっている。

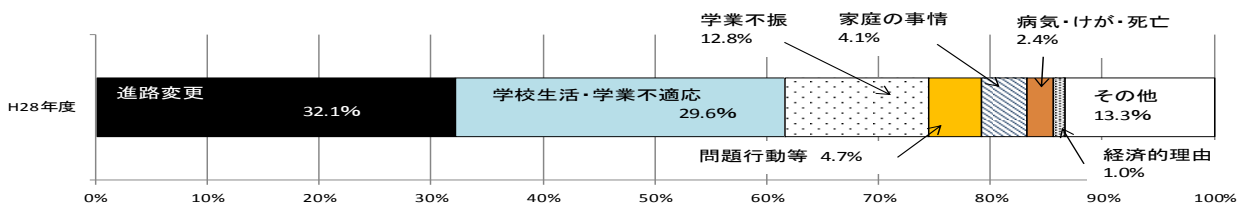
データ：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果及び県教育庁義務教育課「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（宮城県分）の結果より作成（H28 数値は速報値）

2 高校中途退学者の状況

① 中途退学者の推移



② 中途退学の要因



- 平成 28 年度の県内高校生の中途退学者数は 1,106 人で、中途退学率は 1.74%（全国 1.36%）となった。全国平均を若干上回る数値で推移している。
- 中途退学の要因を見ると、「進路変更」が最も多く、次いで「学校生活・学業不適応」となっている。

データ：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果より作成（H28 数値は速報値）

3 特別支援教育の観点からみた高等学校の状況

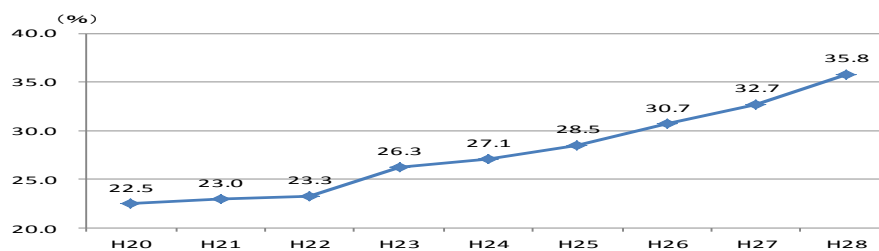
特別な支援を必要とする生徒への対応（『宮城県特別支援教育将来構想 H27. 2』より）

文部科学省の平成 24 年度の調査においては、中学校の特別支援学級から高等学校への進学率は 27.1%となっており、平成 21 年度の調査では発達障害の可能性のある生徒は、高等学校に 2.2%程度在籍していると推測されています。

このようなことから、高等学校においても特別な支援を必要とする生徒に対応するため、多様な教育的ニーズを的確に捉え、障害による学習上・生活上の困難を改善、克服するための配慮を行うとともに、生徒一人一人が持てる力を十分に発揮するための対応が求められます。

また、特別な支援を必要とする生徒へ具体的な支援を行うため、障害の状態、配慮事項、関係機関などの情報を、中学校との接続期には学校間で適切に引継ぎを行うほか、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成と活用を図る必要があります。

* 特別支援学級から高等学校への進学割合（全国）

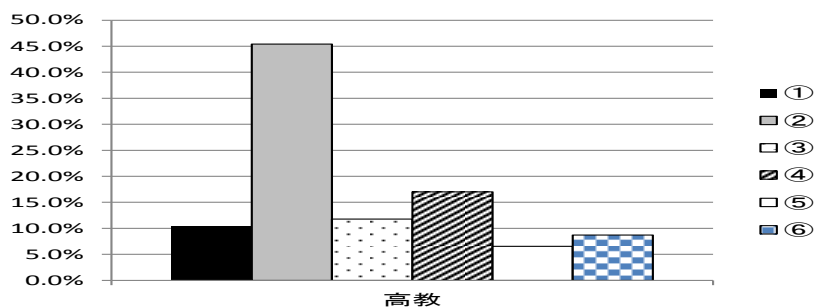


データ：文部科学省「特別支援教育資料」より作成

4 県立高校に関する調査（学校調査）結果

通級指導についての考え方（高校教員）

	高教	
①個別の指導を必要としている生徒がいるので、ぜひ本校でも通級指導を行いたい	24	10.5%
②まだ分からないことが多いので、研修をして実施する方向で考えていきたい	104	45.4%
③通級指導を行いたいですが、単位の設定などが難しいので、一步踏み出せない	27	11.8%
④生徒の自尊感情の課題があるので、通級指導の実施は難しいと思う	39	17.0%
⑤個別の指導が必要な生徒はいないので、実施の必要はない	15	6.6%
⑥その他	20	8.7%
計	229	100.0%



・「②まだ分からないことが多いので、研修をして実施する方向で考えていきたい」の回答が 45.4%と最も多く、「①個別の指導を必要としている生徒がいるので、ぜひ本校でも通級指導を行いたい」の回答と合わせると 55.9%となり、全体の過半数を占めている。

・一方で、「③通級指導を行いたいですが、踏み出せない」、「④通級指導の実施は難しいと思う」、「⑤実施の必要はない」の通級指導に否定的な回答が合わせて 35.4%となっている。

5 他都道府県の事例

名称	都道府県	課程	特徴等
パレットスクール	埼玉県	定時制	既存の夜間定時制高校を統合集約した多部制総合学科の単位制高校。対象は小中学校で不登校や他校での中途退学によって、これまで能力や適正を十分に生かしきれなかった生徒であり、発達障害児童の受け入れも可能。
地域連携アクティブスクール	千葉県	全日制	中学校では十分力を発揮しきれなかったけれど高校では頑張ろうという意欲を持った生徒に、企業や大学など地域の教育力を活用しながら、「学び直し」、「実践的なキャリア教育」を行い、自立した社会人を育てる新たなタイプの学校。
チャレンジスクール	東京都	定時制	小中学校時代に不登校を経験した生徒や高校を中途退学した生徒を含め、これまでの教育の中では自己の能力や適正を十分に生かしきれなかった生徒が学校生活を通じて自分の目標を見つけ、それに向けてチャレンジする学校。
エンカレッジスクール	東京都	全日制	週1回の体験的学習の実施、既存の全日制高校からの中退率、生徒指導上の課題状況、地域バランスを勘案して指定。可能性を持ちながらも力を発揮できない状態の生徒を積極的に受け入れ支援するための施策を実施する学校。
フレキシブルスクール	神奈川県	全日制 定時制	「一人ひとりのペースでじっくり学ぶ学校」として、生徒一人ひとりの生活スタイルや学習ペースに柔軟に対応できるよう、1日8時間や12時間という幅広い授業時間帯を設け、より柔軟な学びの仕組みをもつ単位制による普通科高校。
クリエイティブスクール	神奈川県	全日制	中学校までにもてる力を十分に発揮できなかった生徒を積極的に受け入れ、さまざまな教育活動を通してこれからの社会生活をよりよいものにする意欲と他者との関わりを大切にしながら「社会実践力」を育む学校。
エンパワメントスクール	大阪府	全日制	生徒が持っている力を最大限に引き出し、しっかりとした学力と社会でがんばる力を身に付けるための新しい学校として設置。
クリエイティブスクール	大阪府	全日制 定時制	自ら選び、自ら学び、夢をかなえる新しいタイプの高校。多様なニーズをもつ生徒が目的意識を持って学ぶことができるよう、単位選択制度を持つ。

県教育庁教育企画室調べ

- ・中学校での不登校経験者や高校の中途退学者の学び直しに特化した学校を設置している事例が見られ、入試制度やカリキュラムに特徴を持たせた運用を行っている。

6 課題と改革の視点

宮城県における課題

- ・不登校経験者や全日制課程からの転入学者や中途退学者など様々な入学動機や学習歴を持つ生徒が増加していることから、多様なニーズに対応する必要がある。
- ・特別支援学校への入学を希望する児童生徒数が増加しているほか、発達障害など、普通学校に在籍する特別な支援が必要な子どもたちに対する教育的ニーズに対応する必要がある。
- ・高校教員に対する特別支援教育への理解の啓発を行う必要がある。

改革の方向性

- ・高校における通級による指導など個別の支援を要する生徒への対応の充実
- ・特別支援学校や地域の関係機関との連携の強化
- ・インクルーシブ教育システムの充実に向けた体制整備

※

- ・多様な学びのニーズに応える学校づくり
- ・基礎からの学びの充実
- ・多様な学びに対応するための体制の整備

※定時制課程の記載と同様